

2014年度

事業報告書

鎮西学院本部

鎮西学院幼稚園

鎮西学院高等学校

長崎ウエスレヤン大学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

学 院 本 部

2014年度学院事業報告

◆建学の精神

敬天愛人を基として、キリスト教精神に基づく人格教育を行い、品性高潔なる人格の育成をもって社会と世界に貢献する。

この建学の精神に則り、長崎ウエスレヤン大学、鎮西学院高等学校、鎮西学院幼稚園を運営する。

◆2014年度 学院目標聖句

「目標を目指してひたすら走ることです」

フィリピの信徒への手紙3章14節

◆設置する学校等及び入学定員(2015年4月1日現在)

○長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 140名

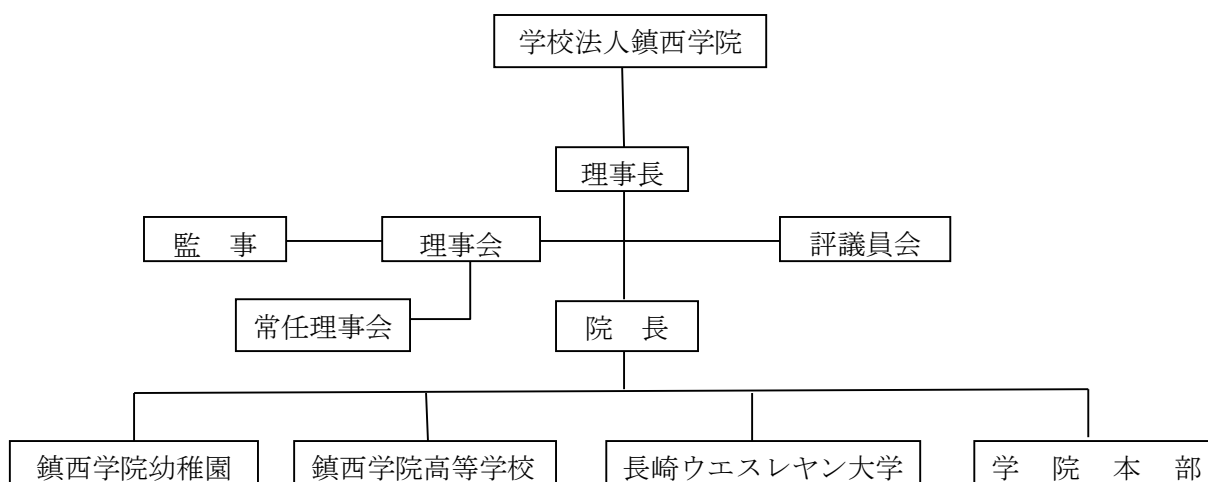
社会福祉学科 50名 経済政策学科 50名 外国語学科40名

○鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名

普通科 200名 商業科 100名

○鎮西学院幼稚園 収容定員 140名

◆学院組織



■ 理事会開催状況・主な審議事項

- ・2014年 5月27日 定期理事会 2013年度決算（案）、監査報告
- ・2014年 11月13日 定期理事会 補正予算：大学スクールバス購入
〃：大学建物耐震診断、高校建物耐震診断
就業規則の一部改正
- ・2015年 2月20日 定期理事会 院長の選任、経理規程の一部改正
- ・2015年 3月27日 定期理事会 理事の退任及び就任
2014年度補正予算（案）、2015年度事業計画
2015年度予算（案）、組織規程の一部改正
給与並びに退職金規程の一部改正
大学再建プロジェクト委員会の設置及び担当理事
の選任

■ 評議員会開催状況・主な審議事項

- ・2014年 5月27日 定期評議員会 2013年度決算（案）、監査報告
- ・2014年 11月13日 臨時評議員会 補正予算：大学スクールバス購入
〃：大学建物耐震診断、高校建物耐震診断
就業規則の一部改正
- ・2015年 3月27日 定期評議員会 理事の退任及び就任
2014年度補正予算（案）、2015年度事業計画
2015年度予算（案）、組織規程の一部改正
給与並びに退職金規程の一部改正
大学再建プロジェクト委員会の設置及び担当理事
の選任

■ 聖書塾（学院教職員対象）の開催

金曜日 18：30～20：00 7回開催

6月20日、7月18日、9月26日、10月31日、11月21日、1月23日、2月20日

鎮西学院幼稚園

“子どもたちの瞳の輝きがここから生まれます”

1、教育の重点目標 “保育の原点がここにはあります”

(1) 保育のこころ・保育目標

- ①幼児教育は、人生の土台（人格形成）を育む大切な基礎づくりであると心に刻んで保育に努める。
- ②キリスト教の精神に基づき、キリスト教保育を柱として、人を思いやり感謝の心を育てるため、愛のことばで育むとともに、毎朝子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートする。
 - ・宗教行事の礼拝や親子礼拝も、森副院長、山城大学宗教主事、鉄口高等学校宗教主任、各牧師先生方のご協力を得て実施できた。
 - ・園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。
- ③学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性や創造性を育て、『幼児は遊びで育つ』という理念の下、計画的、創造的にのびのびと育てることを大切にする。それは、子どもは遊びの中で社会性や協調性が培われ、他者への思いやりの気持ちも育ってくるからであり、これからの子どもたちの人生の中で『生きる力』の礎になるからである。

(2) キリスト教保育の充実

- 『保育のこころ』・『保育目標』に基づく保育活動、ピースチャペルでの「親子礼拝」を始め、「保育室での礼拝」で毎日祈りをもってスタートさせることができた。
- ・また、「クリスマス礼拝・祝会」等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。クリスマス礼拝・祝会は園児数増加に伴い、大学のご協力を得て西山ホールで開催しはじめ5年になる。保護者からも好評であり、継続したい。

(3) 学校評価の推進

- ・教職員による自己評価を実施し、教育目標の再確認や実践改善を推進している。
- ・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な評価をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」「安心と信頼の構築」に向けて推進している。

(4) 園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行し充実を図る

月々のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を、「園だより」や「学級だより」、写真を多数載せたフォトレターにより知らせ、保護者との信頼関係を構築している。

(5) 「園長タイム」の創設

前園長が実施していた「園長体操教室」の後を受け、2014年度より、かな文字表記に結びつく「ことば遊び」や「造形遊び」、集団行動など、小学校にもつながる要素を取り入れて“園長タイム”として実施している。

(6) 教職員のこころ（組織の基本）

1. 園長を中心に組織がまとまる心を持つ。
2. 園の方針を理解し、その方針に添って行動する心を持つ。
3. 教職員が職場に誇りを持つ。
4. 笑顔で保護者とのコミュニケーションをとる心を持つ。
5. 教職員を導く主任がいる。
6. 教職員が笑顔に満ち溢れている。

「教職員間の
共通理解・
共通実践」

7. 自然な挨拶ができる。

8. 掃除が行き届く。

“キリスト教保育の場にいる保育者は、教会の礼拝を肌で感じ、大切にしている心が求められている”

2、園児募集対策

『 園児数の推移 』

2001年度（平成13年度）	・・・	83名
2002年度（平成14年度）	・・・	93名
2003年度（平成15年度）	・・・	92名
2004年度（平成16年度）	・・・	94名
2005年度（平成17年度）	・・・	80名
2006年度（平成18年度）	・・・	77名
2007年度（平成19年度）	・・・	64名
2008年度（平成20年度）	・・・	72名
2009年度（平成21年度）	・・・	106名
2010年度（平成22年度）	・・・	104名
2011年度（平成23年度）	・・・	109名
2012年度（平成24年度）	・・・	106名
2013年度（平成25年度）	・・・	95名
2014年度（平成26年度）	・・・	104名（年度初め95名）
2015年度（平成27年度）	・・・	100名（2015.5.21現在）

※園児はもとより、保護者や家族の評価・評判が最大の広報となることを日々肝に銘じながら、以下の取組を行った。

“魅力あふれる幼稚園づくり”を目指して

(1) 広大で緑豊かな学院全体を活用して「心と体の健康」を推進

- ・園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を子どもたちに育てている。
- ・「学院内遠足」を各学期に実施。学院内を散策し、野球グラウンド外野芝生で活動した。
- ・「梅の実ジュース」、「どんぐり拾い」、「探検ごっこ」、「散歩」なども行った。
- ・高校グラウンドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い、親子夏の集い）を実施。
- ・2013年度、高校敷地に「芋畑」を開墾。親子畝づくりと苗植え、芋ほりを実施した。

○これらは鎮西学院幼稚園にしか出来ない活動や行事であり、最大のアピールポイントでもある。

(2) 遠足の充実

- ・4月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスを利用し現地まで行った。3ヶ所を1年置きに実施。今回は干拓の里。
- ・3月のお別れ遠足は、年長組を園～県立総合運動公園までの徒歩に挑戦させた。（3km）年中組は市営野球場～（1.5km）に挑戦した。年少組は、バスで現地まで行き運動公園内を

歩いた。

(3) 外注弁当に加え「パン給食」の導入

- ・子育て支援の一環として、2010年度より週1回月曜日を全員外注弁当（給食）方式で実施している。
- ・2014年度より、新たに週1回「パン給食」を希望制で導入した。（2013年度3学期から、年長組で試行）
- ・かねてより給食の日数を増やしてほしいという要望があったのにこたえる形で開始。

(4) 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）

- ・保育主任主導で
月2～3回「おひさまくらぶ」（2歳以上対象）実施。
学期毎に1～2回「グリーンクラブ」（1歳以上対象）実施。
子育て支援の一環として楽しいプログラムを充実させ、広報にも結びつけている。

(5) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進

- ・キリスト教行事は元より、伝統的行事など他の行事もその充実に努めている。
- ・保護者の参加型行事を計画し、幼稚園への理解・協力を深めてもらう機会とし、幼稚園の活性化にもつなげている。（親子歓迎遠足、親子礼拝、親子で楽しむ夏の夕べ、親子で芋畑の畝づくりと芋苗さし…）
- ・園運営について、毎月保護者会役員会で説明責任を果たすとともに、行事等について率直な意見、要望を聞くなど、その連携に努めている。

(6) 預かり保育の充実

- ・仕事をしておられるお母さん方への、子育て支援の一環として実施。
- ・保育者2人体制で充実を図っている。
- ・夏期休暇中に長崎ペンギン水族館及び大村野岳水辺の森公園への遠足を実施。子どもたちや保護者にも好評で毎年恒例としている。

(7) ホームページの完全リニューアルによる情報提供、宣伝活動の充実

- ・2014年2月にホームページをリニューアル。
- ・本園の特色を具体的にアピールするために、日常の保育活動の様子を発信する。
- ・このことにより、保護者への情報提供や説明責任を果たすとともに、インターネットによって幼稚園を検索する保護者への、貴重な広報としている。
- ・下記「園長室だより・子育て談話室」も、ホームページに掲載している。

（アクセス数が多く、手ごたえを感じている）

(8) 園長室だより「子育て談話室」の発行

- ・従来の園だより、学級だよりに加えて、保護者と園がともに子育てについて語り合える機会づくりと、子育てのヒントを提供するため、2013年12月より発行。
- ・月2回程度、印刷して全世帯に配布するとともに、ホームページにも、「園長の子育て談話室」として掲載。
- ・内容例： 園での子どもの様子から 幼児期の遊びの持つ意味
子どもの成長段階 ほめ方叱り方 身近なできごとやニュースに関して
ことばや文字について お母さんのためのかな文字教室 ……
（2014年度は、計画的にシリーズものも掲載していく。）

(9) 教職員研修の充実

- ・保育者の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開される。
- ・保育の質向上のため出張研修のみならず、2014年度より研修テーマを設定し「園内研修」の充実を図っている。2014年度園内研究テーマ…『学院の環境をもっと知り、楽しもう』

- ・また、並行して「現職教育」の時間も設定し、教育技術や知識の充実を図っている。

3、施設、設備及び環境整備

(1) 園児送迎用ミニバス（ワゴン車）

2008年度よりタクシー会社と業務委託を継続してきたが、経費面での事情で2011年度契約打ち切りとした。2012年度からは、園で中古ワゴン車を購入し運行を継続しているが、故障が多く、計画的な整備を考えている。

(2) 園庭整備の推進

①砂場及び泥遊び場の整備充実を図ってきた。

幼児教育の中で泥遊び・砂遊びはとても重要なので、梅雨時はテントを張るなど、年間を通して利用できるようにしている。

②園庭内遊具のペンキ塗りを、心がけて随時実施している。

③園庭美化のため芝を刈り美しい園庭を保持する。

- ・緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせたい。そのため、芝生の傷んでいるところを補修し、養生している。
- ・花いっぱい運動を展開し、一年中花に囲まれ子どもたちの笑顔あふれる幼稚園とする。

4、学院内に「検討会議」を設置

- ・2015年度から「子ども・子育て新制度」が発足する。この制度にどのように対応していくか検討するため『幼稚園新制度・検討会議』を、2014年度に設置した。
- ・検討会議のメンバーは、次のとおり。
院長、副院長、事務局長、総務課長、会計課長、園長、幼稚園主任
- ・今後この会議では、新制度への対応をはじめ、園舎の新築または増改築、職員体制、園バスの購入計画など、これからの幼稚園の中・長期のあり方を検討する。
- ・なお、検討事項については逐次学院幹部会で報告を行っている。

5、危機管理

“幼稚園は子どもたちの命を守るのが使命、

- (1) 子どもの生命、健康を預かっているとの使命感を持ち、学期ごとに職員総出で安全点検を実施している。
- (2) 園児の避難訓練を年間を通して実施している。（各学期に2回実施。不審者、火災、地震）マニュアルをもとに点検整備している。特に不審者対策では正門前の運行部にも応援要請している。
- (3) 職員室に『さす股』を設置している。
- (4) 不審者対策の道具『ネットランチャー』を設置している。（ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつく防犯対策機器。）
- (5) 不審者対策の道具『ガス噴射器（消火器の小型）』を常設し、これにより不審者の撃退を図る。
- (6) 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。

鎮西学院高等学校

2014年度 鎮西学院高等学校事業報告

I 教育の充実

(1) 建学の精神の推進とキリスト教教育の実践

- ① 2014年度目標聖句「目標を目指してひたすら走りなさい」が与えられ、2014年度が神によって導かれ、生徒および教職員が希望をもって1年間の歩みを終えることができたことに感謝したい。
- ② 2014年度は落ち着いた雰囲気ですべての全校礼拝を守ることができた。
全校礼拝やクラス礼拝を通じて、生徒も教職員も神に生かされている存在であることを学ぶことができた。
- ③ 近隣の牧師先生方の協力を得、特別礼拝や宗教講話日礼拝を守ることができた。
このことは生徒や教職員にとってもよい刺激になった。
- ④ 物故職員記念礼拝、1年生修養会、創立記念礼拝、学校クリスマス等の宗教行事を通して、鎮西学院の建学の精神である「神を敬い、人を愛する」ことを学ぶことができた。
- ⑤ 8月9日の平和祈念礼拝や校友会による被爆体験継承を行い、多くの犠牲者を出した被爆当事校として、平和大行進等積極的に平和教育に取り組む活動を行うことができた。
- ⑥ オープンキャンパスやPTA総会時に簡単なチャペルを実施することにより、地域住民や中学生に本学院の建学の精神に触れる機会をもつことができた。

(2) 学習指導・進路指導の充実

- ① 2014年度の進路決定状況は、九州大学、横浜国立大学、広島大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、長崎県立大学、明治学院大学、関西学院大学、西南学院大学等国立大学合格者は49名、私立大学は合格者166名と過去最高の好成績であった。就職関係では大村市役所、長崎県警、自衛官等過去最高の44名の公務員合格や、就職内定率4年連続の100%を2014年12月中に達成することができた。進路実現に向けて生徒は勿論のこと、教職員が一丸となって取り組んだ結果である。
- ② 2013年度より基礎学力向上を図ることを目的に全校で学び直しの学習システム「マナトレ」を導入した。まとめテストや認定テストでの不合格者に対しては学年会と基礎学力向上委員会が協力し、放課後の時間を活用し学習指導に当たった。
- ③ 商業科の生徒を中心に、情報処理検定等の資格取得に努め、今後はさらなる魅力ある商業科作りに努めた。簿記実務検定完全1級5名、ビジネス文書実務検定1級1名、情報処理検定2級2名、パソコン検定35名合格。
- ④ 2014年度の長崎ウエスレヤン大学との高大連携プログラムにおいてゼミ訪問を実施し、長崎ウエスレヤン大学に対する関心を高める努力をしたが、内部合格者は20名に留まった。

(3) クラブ活動の充実

2014年度高総体では、サッカー部女子と体操女子が優勝を果たし優勝旗を2本獲得することができた。10月に地元長崎で開催された「長崎がんばらば国体」では本校卓球部男子、全国サッカー選抜大会で全国出場を果たしたサッカー部女子、ボクシング同好会が大活躍を見せ、長崎県の天皇杯獲得に大きく貢献した。

3月東京で行われた第20回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会「さくらバレー2015」において、本校男子バレー部が全国第3位の好成績を収めた。また吹奏楽部が九州吹奏楽コンクール県予選、九州マーチングコンテスト県予選において金賞を獲得し、両部門において九州大会出場を果たした。

(4) 生徒指導の充実

- ① 全教職員の共通理解・共通実践を基本とした指導体制の確立を図ってきたが、世代間で若干指導に温度差を感じるがあった。初任研等研修会を充実させることにより指導の偏りを是正したい。
- ② 元気のよい挨拶の励行に努めた。
- ③ 基本的生活習慣を身につけさせることに努めた。(清掃の徹底、遅刻、欠席の減少) マナー教育に力を入れ、特に「着こなし指導」の徹底を図ってきた。今後も服装の乱れを根絶するため一層の努力をしていきたい。
- ④ 防犯カメラの設置により、校内への不審者情報は皆無であった。
- ⑤ 2014年度より、携帯電話の所持については認めることとし、校内持ち込みについては許可制とした。携帯電話によるいじめ防止にも努めてきた。
- ⑥ いじめや体罰についての研修会を行い、安心・安全な学校作りに努めてきた。今後も他校の取り組みを参考にするなど、一層充実した研修を行っていきたい。

(5) 学校力の強化

- ① 目標設定・自己申告制度の定着化を図ることにより、教職員の意識改革につなげることができた。また、教職員からの学校活性化への提言はほとんどが建設的なものであり、今後も現場の改善につなげていきたい。
- ② 2014年度は、久留米ゼミナールの協力を仰ぎ、生徒を対象にした特別授業を実施した。生徒にも好評であったが、参加した教員にとっても大いに研鑽の場となり、教科指導力の向上につながった。
- ③ 学力診断テストスタディサポートのデーターを基に、業者による校内研修を実施した。これにより生徒の実力確認と今後の対応策を図ることができた。2014年度はスタディーサポートの伸び率の高い生徒には励みになるよう全校で表彰を行った。

(6) 国際交流の推進

- ① 姉妹校であるアップルビーカレッジとの交換留学(2名派遣、2名受け入れ)、ロータリークラブ等との交換留学(1名派遣、2名受け入れ)を実施した。
- ② 異文化を理解して受け入れることのできる人間を育てることを目的に、修学旅行(シンガポール、マレーシア)を実施した。2015年度は旅行先を複線化(オ

ーストラリア、台湾、国内等)を図り、国際情勢を十分考慮しつつ、実施していくための準備を進めてきた。

(7) P T Aとの連携

- ① 体育祭、文化祭、市民クリスマス等の学校行事や私学振興大会にも積極的に参加していただくようはたらきかけた。今後も常に開かれた学校として、保護者が気軽に授業見学、相談ができる体制を整えていきたい。
- ② 県下7地区において地区P T Aを実施した。保護者会では多くの意見や要望が出されたが、出席した教職員の誠意ある対応により保護者との信頼関係を築くことができた。

Ⅱ 生徒募集対策

(1) 学則定員300名に対し、41名減の259名という結果となった。併願試験における手続き者が大きく減少した。特に商業科においては昨年比マイナス39名であった。この結果商業科においては1クラス減の2クラス編成となった。

(2) 要因

- ・近隣公立高受験生および公立高校不合格者が減少した。(近隣公立高不合格者245名、昨年度319名)
- ・歩留率の減少23%(昨年度40%)
- ・進路実績や部活動の活躍の好結果が入学者の増加につながらなかった。

Ⅲ 施設・設備整備の充実

- ① 図書館前および講堂前から駐車場の渡り廊下改修工事(432万円)
- ② 教室ロールカーテン取り付け工事(165万円)
- ③ 木造校舎4教室および進学室・就職室のLED化(90万円)
- ④ 講堂および図書館の耐震診断結果

講堂：補強で対応可

図書館：耐震工事の必要はなし

※ 講堂立替えは工事費が1.5倍に高騰するため、再検討が必要である。

長崎ウエスレヤン大学

REBORN NWU

2011 年 9 月 21 日

2011 年 12 月 6 日

ミッション

国際的に有為な社会人を育成する。

ビジョン

「顧客」の視点	「業務・組織運営」の視点	「人材・組織の成長」の視点	「財務」の視点
・学生の可能性を最大限に引き出し、世界に羽ばたく人材を育成する。	・家族・地域・大学が一体となって教育に取り組む新体制をつくり、さらなる地域密着を目指す。	・未来の「エンジン」たる教職員の育成及び支援体制をつくる。	・ウエスレヤン資源の利活用により新たな収益を得る。

つなげる つながる いっしょに歩む 成長の学びを支える長崎ウエスレヤン大学

1881 年、宣教活動のため日本に来た年若きロング夫妻は、テネシー・ウエスレヤン大学でカブリー博士の未亡人から、日本の若い人々の教育のために託された 2 ドル銀貨と、多くの有志者から寄せられた献金をもとに、東山手の地に鎮西学院の前身である、“カブリー・セミナリー”を設立しました。その後、1945 年の原爆投下によって大きな被害を受け、翌年には諫早の地で新しいスタートを切ったのです。

19 世紀に、アメリカの若き宣教師に託された思いが、キリストの教えとともに長崎の若い人びとにつなげられ、21 世紀の今につながっています。そしてそこには、いつも学生達とともに、汗や涙を流してきた教職員の姿があるのです。

時代が変わった今でも、私たちの使命は変わっていません。人生の設計図が描きにくい時代だからこそ、人間関係に悩む若い人たちが多い時代だからこそ、彼らの持つ潜在的な力を信じ、それを開花させるために、私たちは、この 4 年と言う限られた時間の中で、学生たちを社会へ、そして世界へとつなげ、ともにつながり、未来に向かっていっしょに歩みたいのです。

なによりも、諫早の地の緑豊かな小さなキャンパスでの出会いを大切に、ひとりひとりの成長の学びを支える大学でありたいと願っています。

バリュー

キリスト教の信仰から生ずる価値観

“信仰を持てば人は変わる”

- ・オンリーワン教育
- ・平和をつくりだす人
- ・2ドルの精神
- ・国際交流

1. 凡事徹底と教学マネジメント改革への取り組み

新たな学長のもと、中期経営戦略に基づく戦略テーマの実現に向けた教学マネジメントの改革を進めた。

【戦略テーマ】

1. 学生募集の新たなモデルと入学定員の確保：アジアと九州をターゲットとする新たな学生募集モデルを構築し、潜在能力のある学生を獲得することにより、入学者を安定的に確保する。
2. 体系的な教育プログラム構築：学生支援、キャリア支援と教育課程を体系化し、学生の潜在能力を最大限に引き出す。
3. 学生の満足度を最優先とする教職員のモラル共有：個々の学生の満足度・教育研究の質を高めるために教職員が自覚をもつ。
4. 「活動する学生」：海外協定大学・地域・保護者とのパートナーシップを構築し、学生に豊富で多彩な学習活動の機会を提供する。

大学運営組織を見直し、学部長、学生部長、教務部長、キャリア支援センター長等の部長制により、教学に関する責任体制が一新され、改めて教員組織が主体となって大学教育改革に取り組む体制となり、教学部門の事務局と教職協働による教学マネジメントに取り組んだ。

2. 教学改革の成果と産学官連携の推進

1) 全学的キャリア支援体制の成果

初年次からの一貫したキャリア支援プログラムの強化の結果、2014年度卒業生の進路達成状況は、以下の通りとなった。

特に、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格率は、昨年度に引き続き県内1位となった。

【就職・進路実績】

- 就職率 91.5% ※2013年度 83%
就職者 54人
(内訳) 一般企業 35人 福祉関係 15人 教員(高校)2人
県内 50人 県外 4人 ※就職希望者59人/卒業生78人中
- 学科別就職率 ※カッコ内は前年度就職率
社会福祉学科91.7%(75.0%) 経済政策学科90.0%(81.8%) 国際交流学科100%(100%)
- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
社会福祉士 合格者数8人 合格率53.3%(27.0%) 県内1位
精神保健福祉士 合格者数9人 合格率100.0%(61.3%) 県内1位
- 主な就職先：国立病院機構長崎病院、長崎西彼農業協同組合、株式会社オンワード樫山、雲仙旅館 福田屋、スズキ自販長崎、JR九州、創成館高等学校、長崎女子高等学校
- 進学先(大学院)：アジアンスカラーズ大学(タイ)、長崎大学教職大学院、名古屋大学大学院、広島大学大学院、熊本大学大学院

【資格取得支援】

- 情報処理関連資格 CS検定 ワープロ部門:3級 65人合格・同2級 1人合格
表計算部門:3級 53人合格
- 英語教育 TOEIC(IP) 受験者数:52人(昨年度41人) 最高スコア:930点
- 介護職員初任者研修・・・15名受講

2) 産学官連携への取り組み

【産学官連携に関する協定締結の状況】

大学カリキュラム全体を体系的なキャリア教育へと再構築する基盤として、産業界、行政・団体との包括的協定を以下の通り締結した。

協定内容	締結先
(2014年度締結)	
雲仙温泉まちづくり協定	雲仙温泉観光協会 雲仙旅館・ホテル組合
産学地域連携包括協定	長崎県中小企業家同友会 諫早支部
包括的連携に関する協定	長崎県市町村行政振興 協議会
まちづくり協定	諫早市 長崎総合科学大学
(2013年度以前締結)	
まちづくり協定	小値賀町(2004年～)
まちづくり研究室・生涯学習室 委託契約	諫早市(2006年～)

【産学官連携による教育プログラム開発の状況】

教育プログラムにおいても、従来の「コミュニティサービス」、「インターンシップ」等の全学教育科目における地域連携・産学連携、福祉専門職養成における医療福祉ソーシャルワーカー協会をはじめとする福祉・医療現場との連携に加え、さらに産学官連携を進め、プロジェクト学習や体験学習の機会創出・プログラム開発に取り組んだ。

プログラム内容	連携・委託元
がんばらんば国体ボランティア派遣	長崎県・諫早市
がんばらんば大会ボランティア派遣	長崎県・諫早市
長崎県「留学生とともに進める地域国際化事業」 「留学生とともにすすめる観光まちづくりin雲仙温泉」	長崎県補助事業 連携先:雲仙温泉観光協会
雲仙温泉観光協会ホームページ翻訳(中国語・韓国語) 委託事業	雲仙温泉観光協会
文部科学省「成長分野等における中核的専門人材の戦略的推進事業」 「長崎発オーダーメイド型観光地域づくり人材プロジェクト」	文部科学省委託事業 連携先:九州大学・長崎国際大学・長崎県観光連盟・島原半島観光連盟・JR九州長崎 他
中小企業家同友会とのFD合同ワークショップ (就職活動直前ガイダンス+FD研修会)	長崎県中小企業家同友会諫早支部

3) 大学改革の成果(文部科学省 私立大学改革総合支援事業 選定状況)

2014年度は、前年度に引き続き、タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」(選定率44%)に加え、新たにタイプ2「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」(選定率31%)に選定された。

この結果、国庫補助金が51,800千円(うち経常費補助金22,000千円・私立大学等教育研究活性化設備整備費29,800千円)の増額となった。

この補助金により、eラーニング環境の整備として動画教材の製作、クラウドノートと学生ポータル
の整備を行った。

※私立大学改革総合支援事業:「大学力」の向上のため、私立大学等が組織的・体系的に取り
組む大学改革の基盤充実を図るため、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援され
る。

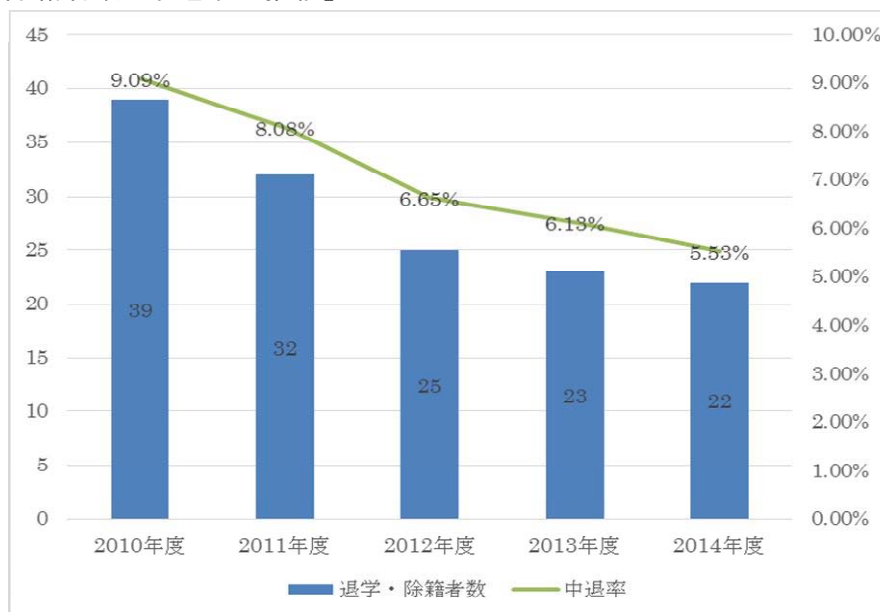
4) カリキュラム改革の進捗

昨年度より、研究開発に取り組んできた体系的なキャリア教育プログラムの構築が完了し、2015
年度より開始することとなった。学部教育を基盤教育科目と専門教育科目により体系化し、「○○
○ができるようになる」といった学習成果を明示した積み上げ型モジュール学習プログラムにより、
構築することとなった。サービスラーニングを1年次～3年次まで必修化し、専門職養成のための
実習、地域貢献・産学連携型フィールドワーク、長期インターンシップなど、学生の自己実現に向
けた教育プログラムを開発した。

5) 中退予防

2014年度より、従来の学生課、キャリア支援センター、留学生センターを学生支援課に統合し、
一体的かつ総合的な学生支援体制のもと、中退予防に取り組んだ。その結果、退学・除籍者は
昨年度よりさらに減少した。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



3. 「活動する学生」

海外協定大学・地域・保護者とのパートナーシップを構築し、学生に豊富で多彩な学習活動の機会を提供することに取り組んだ。

- 特に推薦・AO入試による入学予定者を対象に、入学前教育プログラム「大学入門一歩前」を3月に実施。大学生生活への適応プログラムと個別相談により、個々の学生の特性を把握する機会を設けた。
- がんばらんば国体へのボランティア派遣を初年次教育プログラム(必修科目「大学入門Ⅰ・Ⅱ」)を中心に全学行事として位置づけ、学生・教員の全員参加体制により、取り組み、諫早市、長崎県より感謝状が贈呈された。
- キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。従来ของไทย、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、韓国提携校の留学生を対象とした1か月の超短期プログラムを7月に実施した。
- 長崎県補助事業、文部科学省委託事業を通じ、観光分野の団体との連携を強めた。また、のんこの諫早祭りへ教職員全員が参加するなど、教職員の社会貢献活動を促進させ、地域との連携を強化した。
- こうした地域連携の取り組みが認められ、諫早市より市制(合併)10周年を記念して「まちづくりの推進に貢献した」として表彰を受けた。

4. 学生募集の状況

1) 概況

入学定員の確保 達成状況 2015年度 入学定員充足率: 52.1 %

収容定員の確保 達成状況 2015年度 収容定員充足率: 60.2 %

今年度の学生募集においては説明会やオープンキャンパスの増設、ゼミラリーなど高大連携に取り組んだが、大幅な入学者減少という深刻な結果となった。推薦・AO入試での日本人学生100人確保を目標とするが、41人という厳しい結果となった。

(定員充足率の推移)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
在籍学生数	376	375	398	373
(収容定員充足率)	(57.0%)	(56.8%)	(62.2%)	(60.2%)
入学者数	125	96	105	73
(入学定員充足率)	(78.1%)	(60.0%)	(75.0%)	(52.1%)

2) 広報活動

- 進学説明会からオープンキャンパスへの参加者数を増やすことにより出願への流れを作るため、説明会への参加箇所の増加、オープンキャンパスも年3回開催した。
- 活動する学生や教員の取り組みを新聞記事や受験雑誌を通し大学名をアピール。県内各所における看板・ポスター設置、長崎市電への新規掲載。福岡地区においても天神地下鉄構内、博多バスターミナルでのパンフレットラック設置を継続したが、認知度不足は否めない。
- 各種イベントへの積極的な参加により、地域交流を深めるとともに、継続事業として長崎空港とタイアップし、8月・10月・12月・1月には1階ロビーにてパネル展示や資料配布を実施した。特に10月は長崎国体時期に合わせ実施した。各期間、広報媒体配布状況は毎回300部前後と好調であり、県内外へのアピールの一端を担っている。FM諫早での学科紹介や学生のような活動報告などを地元市民に向けて情報発信も継続中である。
- 高校でのガイダンス増加を機に教員を積極的に派遣し、高校生に対し、専門性の高い講義を提供。本学に対する印象を深め、進学への動機づけをはかるとともに、高校教員に対する大学アピールにもつながった。

3) 留学生募集の状況

2014年度4月は、ネパールやベトナムより日本語教育プログラム科目等履修生を計40人受け入れた。引き続きアジア新興国とのネットワークの拡大の契機としたい。いっぽうで、優秀な学部留学生を獲得するためには、住居やアルバイト先などの生活支援の基盤整備と、教育プログラムの魅力アップ、キャリア支援・就職先の確保が必須となっている。

【留学生入学者推移】

	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
学部生合計	50	23	35	14	58	14	64	-
日本語教育プログラム	4	0	63	3	27	34	26	-
留学生合計	54	23	98	17	85	48	90	-

5. 財務

- 2014年度予算編成は引き続き、人件費をはじめ、支出抑制に取り組むとともに、魅力ある教育研究環境整備のため、国庫補助金の獲得に取り組んだ。
- 私学助成のルールでは、収容定員の50%を割る場合、補助金不交付となる。不測の事態を防ぐため、2014年度学生募集より、経済政策学科の収容定員の見直しを行った。

6. 主な教育研究活動

＜2014年度累積 GPA 学年別平均＞

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2014年	2.37	2.19	2.5	2.35
	2013年	2.19	2.28	2.18	2.29
最高	2014年	4	3.84	3.76	3.79
	2013年	4	3.63	3.78	3.76
最低	2014年	0.1	0.08	1	0.66
	2013年	0.04	0.12	0.13	0.83

＜学長賞・成績優秀賞＞

学長賞・・・卒業時に4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者 4 年生 1 人
 成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1年	2年	3年	4年
9人	7人	4人	6人

＜各学科の取り組み＞

社会福祉学科

- 最重要課題である国家試験対策については、学科を挙げて学生を支援した結果、昨年度と同様、合格率県内 1 位となった。特に精神保健福祉士は受験生全員合格であった。
- 第 11 回九州地区福祉系高校教員研究セミナー・・・11 月 16 日開催。参加状況；95 名（うち高校教員 16 人、大学教職員 9 名、高校生 54 名、大学生 12 名、その他 4 名）。本学学生は西栄田町地域活動の報告をおこなったほか、高校生とのふれあい講座のファシリテーターを務めた。
- このほか、卒業生を中心とした社会福祉学会の開催、福祉系高校への教員派遣などに取り組んだ。

経済政策学科

- 恒例事業として、学生の企画運営によるワークショップ合宿・研修を開催。多学年の縦のつながりを深めコミュニケーションの増進を図ることはもちろん、学生のファシリテーション能力の向上が見られた。
- 野村証券との連携により、全4回の市民公開講座を開催した。来年度も継続して、今後の産学連携による冠講座へ向け取り組む予定である。
- 前年度に完成年度を迎えたが、引き続き「設置計画履行状況調査報告書」の提出が義務付けられており、2014年度は文部科学省の面接調査を受けた。

外国語学科

異文化理解プログラムを留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5月17日開催。各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
- International Café・・・06年度より毎月1回開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- 留学生の祭典・・・7月開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
- International Talk show, Speech Contest・・・12～1月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
- English Boot Camp・・・8月と2月に実施。Reading、Speaking、そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0人	5人	1人	6人

<地域連携>

NICE キャンパス コーディネイト科目「グローバル化 ぼくらのまちの生きる道」全 15 回
 実施時期;2014 年 10 月 1 日～2015 年 1 月 28 日 毎週水曜 18:00～19:30 開催
 一般市民受講者数;のべ 317 人

科目等履修生の受入状況

前期・後期 計 15 名 (スピーキング、英語コミュニケーション、中国語入門、発達心理学等)
 ※日本語教育プログラム受講生を除く。

受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
平成 26 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 “長崎発オーダーメイド型観光地域づくり人材育成プロジェクト”	文部科学省	10,047 千円
長崎県 留学生と共に進める地域国際化事業補助金 「留学生と共に進める観光まちづくり in 雲仙温泉」	長崎県	475 千円
ホームページ翻訳(中国語・韓国語)委託契約	雲仙温泉観光協会	450 千円
計		10,972 千円

【2014年度 コミュニティサービスプログラム開設・受講状況】

	プログラム名	サイト名 (会場・関連機関等)	担当 教員名	受講数
1	がんばらんば大会ボランティア養成講座	がんばらんば大会各競技会場	金文華他 社会福祉教員	37
2	「風の舎」ピアサポート活動	NPO 法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジまちなか相談室「風の舎」	中野伸彦	33
3	こどもの城プレイリーダー事業	諫早市こどもの城	菅原良子	11
4	まちづくり応援隊	「まちづくり研究室」を拠点に市内及び周辺地域	佐藤快信・藤崎亮一	10

5	交流さんぽ会	大学周辺 大学施設内	齊藤仁志	22
6	地域で活躍する人を訪ねようプログラム	長崎県内	入江詩子	11
7	学生による県央・県南地域の地域ブランドの商品開発	学内・県央・県南地域	加藤久雄	4
8	韓国と長崎の先進的地域コミュニティへの支援活動	長崎市ダイヤランド、諫早市中尾町、韓国	加藤久雄 斐 瑠俊	6
9	B1 グランプリに参加して地域ブランドと食を通したまちづくりの最前線を学ぼう	宮崎県・福島県	加藤久雄	1
10	チャペル クワイアー	本学・ピースチャペル	山城順	10
11	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支援	山口弘幸	0

<高大連携関連事業報告>

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。

特に鎮西学院高等学校との高大連携については、初めての取組みとして「ゼミ訪問ラリー」を実施し、ゼミの雰囲気を感じてもらい、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。また、これまで社会福祉学科のみ実施していた高大連携授業を、3 学科に拡大して実施した。

<学術研究>

個人研究費の配分状況

2014 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

地域総合研究所共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
斐 瑠俊	教授	基盤教育を中心とした本学教育プログラムの体系化及び主体的学修プログラムの開発
占部尊士	准教授	福祉専門職養成における産学連携の協同学習（IPE）実践
銭坪玲子	講師	ピア活動と「新しい評価」－日本語教育における実践と研究－
加藤久雄	准教授	五島列島における潜伏期から近代キリスト教布教期の物質文化学的研究

科学研究費助成事業の獲得状況

2014年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)は、新規採択・研究分担金はなし、継続3件であった。

また、2014年度の科研費申請件数は8件であった。

科研費総額(2014年度)

直接経費	間接経費	計
2,100千円	630千円	2,730千円

<体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部 (男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(沖縄)	3部4位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(大分)	3部6位
バレーボール部 (女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(鹿児島)	5部9位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(宮崎)	6部4位 個人ブロック賞 佐藤三絵子
	長崎県大学女子バレーボール大会(長崎)	6位
卓球部	南日本(中国・四国・九州)学生選手権大会(愛媛)	男子シングルス出場 松木慎平
	長崎県卓球選手権大会・全日本大会予選会	女子ダブルス準優勝 熊川菜月 混合ダブルス3位 熊川・松木組
	全九州春季卓球大会(熊本)	男子団体4部Bリーグ2位、 男子シングルス 松木慎平・男子ダブルス 松木・久米組 4回戦進出
	全九州秋季卓球大会(福岡)	男子シングルス 松木慎平 4回戦進出
	全九州学生新人卓球大会(福岡)	男子シングルス、ダブルス 久米克昌、西 山優輔出場
	諫早卓球センター杯争奪卓球大会	男子シングルス優勝、 ダブルス3位 松木慎平
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 佐賀	5位
	Exciting Baseball トーナメント in 宮崎	9位

バドミントン部	九州学生バドミントン選手権大会(日置)	男子シングルス 高比良、二股、福井 1回戦、古場 2回戦 男子ダブルス 上野・二股、古場・福井 1回戦 女子ダブルス 莫・宋、松田・牛嶋 1回戦
	中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会(沖縄)	男子シングルス 村里 2回戦 男子ダブルス 松永・増永、楠・伊藤、古場・平野 1回戦 女子シングルス 宋 1回戦 女子ダブルス 松田・牛嶋 1回戦
バスケットボール部	長崎県社会人リーグ	3回出場
体操競技部	第62回九州学生体操競技選手権大会	女子個人総合2位 寺田葉月
	第64回西日本学生体操競技選手権大会	女子個人総合34位 寺田葉月
	第68回全日本学生体操競技選手権大会	女子個人総合37位 寺田葉月
	第69回国民体育大会 体操競技	成年女子の部 第2位 寺田葉月
硬式テニス部	九州学生テニス連盟春季テニス大会(九州インカレ)	シングルス 穂山 5回戦、中川 4回戦 二股 2回戦 進出 ダブルス 穂山 6回戦、中川 2回戦 二股 2回戦 進出
	第35回福岡県テニス協会杯ダブルス大会	優勝 穂山弘明(社会人)
	プリンスカップ九州大会	優勝 穂山弘明(社会人)
	諫早市テニスクラブ対抗大会	優勝 穂山弘明(社会人)
	第24回新春室内テニス大会	優勝 穂山弘明(社会人)